

1 顧問校長挨拶

2 会場校長

3 部会提案

- ・特に4年らしさが出る「選択・判断」を重点にしている。
この後、「選択・判断」で検討していきたい。
- ・アイデアを出していく授業が多いが、学習しなくてもできるもの、現実的に難しい考えが出る授業になってしまっている。
- ・デメリットを出さないと足立区は小金井市より劣ってて、真似をすればいいとなってしまっているので、住民の「面倒だ」というようなデメリットにも触れるようにした。

4 授業者自評

- ・授業検討を通して、「選択・判断」の大切さに気付いた。単元の最後なので、問いも含め最後まで考えいくことができた。
- ・メリット・デメリットをよく考え、意見が様々になったのがよかった。

5 協議会

練馬・飯塚：都民としてどうかという問いを出していた。都民として難しいのではないかと感じたのだが、都民としての意識をどうもたせたか。

板橋：小金井市など他の地区を調べることで、都民としての意識をもたせた。

世田谷・田内：ごみを減らす取り組みを第7時で学習しているが、その時間と今日では児童の反応はどう違ったか。

板橋：第7時では、リサイクルについて調べなくてもある程度知っていた。

変容としては、結果は同じ文言になった。考えたことを変わった児童もいたと考える。

足立 高橋：小金井市と比べるのはよかった。表に整理し、足立区と比較することもできたのでは。

板橋：もっと比べやすい資料でよいのではないかという意見も出たが、ありのままを見せた方がよいのではと考えた。

足立 小林：「選択・判断」の時間で問いは、児童から出た問いだったのか。

「自分たちだけだったらできる？」と聞いてみれば、問いも出たのでは。

ある児童は、「小金井市に処分場をつくれば、住民も困らないのではないか」という考えをもっていたがどうか。

足立 柏木：ごみの量など、量感が捉えづらい。処分場残り50年という問題意識をどうもたせればいいのか。小金井市のごみの量について資料も提示すべきでは。

板橋：ごみの量については、事前授業の際に、小金井市は人口が少ないからではないかと意見が出た。アバウトにしておいた方がいいと考え、資料は提示しなかった。

6 指導講評 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小倉 勝登先生

- ・「選択・判断」は、実は長く扱ってきた内容である。コロナ禍の中、実践を直接見ることができることは大変意味のあること。授業者、会場校に感謝したい。

<問題意識Ⅰ：改訂した内容の整理をおさえているか？>

「ごみの処理」については

- ①衛生的な処理を示したか。
- ②公衆衛生が向上してきたことを扱ったか。
- ③「法やきまり」について触れたか。(廃棄物の処理に限定した。飲料水などには含んでいない。) 学習内容として、分別のルールのみではないのかもしれない。検討する必要がある。
- ④選択・判断する活動をしたか。評価では、主体的に学習に取り組む態度②に示されている。

<問題意識Ⅱ：「問い」について 学習問題と問いの関連性>

- ・学習問題と問いは繋がっていますか？見通しと問いは繋がっていますか？
- ・本実践では、
学習問題の主語はだれ？ごみが主語なのか？
工夫や努力を調べるのか？収集の様子を調べたら、工夫や努力を考えるのか？
「選択・判断」の問いが、学習したことを基に考えた問いなのか？

◎児童の予想や見通しを経て、問いがつけられていることを分かるように示してほしい。

<本時について>

- ・問いは、「区や市は」どのような工夫をしているのだろうか？本時の目標は、「自分たち」になっている。児童のまとめ「誰が」が出てこなかった。「私は」なのか、「私たちは」なのか。
- ・小金井市の扱いはどうだったか検討すべき。分別方法は異なるが願いは同じという点はよい。しかし、処分場がないので、他区にお金を払っているので願いは他区より切実だ。(自治体の都合)
- ・社会の関わり方を選択・判断する AかBか選択するのではない。学習したことをもとに考えるので、学習したことが授業の中で出てくる。
- ・誰がやるの？立場を明確にする。地域？自分？
区や市の取り組みを見せて、私たちができることを考えることを難しい。
5年生は未来を考えるので、取り組みを見せないと考えることが難しいから見せる。
区や市ではなく、地域の取り組みを見せればよいのではないか。

◎答えは同じかもしれないが、「ごみの分別が必要。なぜなら～」理由が必要になる。

7 謝辞

以上